



ロボット・プロジェクトが優勝！

NHK大学ロボコン2013

大会名 NHK大学ロボコン2013
～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～
日程 6月9日(日)
場所 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室
結果 優勝
競技名 THE GREEN PLANET（ザ・グリーン・プラネット）
活動報告

ABU大会開催国のベトナムは、「どのような種族も世界を形成するパズルの一つのピースである」というメッセージと共に「ザ・グリーン・プラネット」をテーマに選びました。「地球を守る」その責任はここで生活している私達一人ひとりの肩にかかっています。「自覚と行動」私達が、共通の家である地球上で生命をつないでいくために求められているものです。ベトナムが世界の技術者に託したメッセージです。

ロボットプロジェクトの学生は、このメッセージを真摯に受け止めました。彼らの持てる知識、技術、経験、伝統そして時間、何一つ無駄にすることなくこの代表選考会に臨みました。プロジェクトの活動は毎日、本当に毎日深夜12時まで。日曜日にも休むことはありませんでした。夢考房で認められている最長の活動時間は深夜12時です。彼らはその時間を破ったことは一度もありません。授業もあり宿題もある中、本当に限られた時間の中で、少しずつこしずつロボットの精度を高めていきました。なかなか思うように調整が進まない時期もありましたが、苛立つことなくロボットと、そして緑の地球が模擬されたフィールドと向かい合いました。

今回のロボットプロジェクトの優勝は、彼らのそのような大会に臨む真剣な姿勢がもたらした結果であると確信し、そのような彼らとその活動を心からたたえ、誇りに思います。



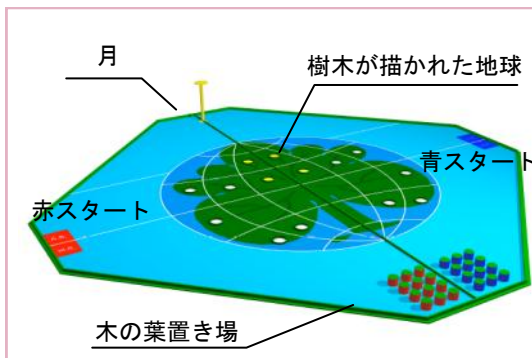
優勝記念撮影

大会結果 大会公式ホームページより

ワイルドカード	× 50	準々決勝 第1試合	○ GP1' 47"	準決勝 第1試合	○ GP37"	決勝	金沢工業大学	NHK 大学ロボコン 2013
名古屋工業大学	予選順位1位	金沢工業大学	○ GP2' 11"					
予選順位5位	× 30	準々決勝 第2試合	× 60	準決勝 第2試合	× 70			
ものつくり大学	予選順位4位	電気通信大学	○ 80					
予選順位7位	× 30	準々決勝 第3試合	○ GP1' 42"	準決勝 第3試合	× 60			
九州大学	予選順位2位	東京大学	○ GP40"					
予選順位3位	× 50	準々決勝 第4試合	× 60	準決勝 第4試合	× 20			
長岡技術科学大学	予選順位6位	京都工芸繊維大学	× 20					

競技内容

競技は、図に示すフィールドで行います。手動ロボットと自動ロボットの計2台のロボットを製作し、赤チームと青チームの対戦形式で競技を繰り返します。フィールドは「木の葉置き場」、樹木が描かれた「地球」、「月」に見立てた高さ1.5m、直径0.5mの台から成ります。手動・自動の両ロボットが地球上に置かれてあるリングに、緑の「木の葉」を埋めた後、自動ロボットが自作の「苗木」を取り、手動ロボットに手渡します。手動ロボットは、約4m先の月に向けて苗木を飛ばし、着地させれば「グリーンプラネット」達成となり勝利となります。競技時間は3分です。



競技フィールド



大会本番の様子

競技結果

大会は、出場権を獲得するための事前審査から始まります。46チームのエントリーの中から21チームが出場権を獲得しました。7つのブロックからなる予選リーグ、各ブロックの1位と7ブロックで最も好成績であった2位(ワイルドカード)の8チームで決勝トーナメントが争われました。本プロジェクトは、全7ブロック中でグリーンプラネットのタイムが最も速く、予選を1位通過しました。決勝トーナメントでも、すべての試合でグリーンプラネットを達成、決勝では自己最高タイムである37秒を達成しました。

ABU大会

ABU大会は、8月18日(日)にベトナムのダナンで開催されます。各国で公平性を保つため、全チームが7月19日にロボットを送る決まりとなっています。日本大会後、わずか1ヶ月の調整期間しかありません。世界大会のフィールドは、日本のようにきれいな床、精度ではないことが多いため、これまで日本チームは苦難を強いられました。これを克服すべく、考えられる条件を全て想定し、今もメンバーはロボットとフィールドと向き合っています。



メカニカルサポートプロジェクトがNHK金沢・夕方のニュースに生出演！

6/23(火)のNHK金沢の夕方のニュースで、人命救助ロボットの開発に取り組む学生として、メカニカルサポートプロジェクトが生放送に出演、活動が紹介されました。

本プロジェクトは、兵庫県神戸市で開催される「レスキューロボットコンテスト」に出場し、ロボットの評価を行っています。2012年の第12回大会は、総合4位、レスキューロボット工学奨励賞を受賞しました。このコンテストは、被災地を6分の1で模擬したフィールドから、“ダミヤン”と呼ばれる衝撃センサーなどが内蔵されたダミー人形を救助することがミッションです。4台のロボットの連携により、速くやさしく救出することが求められ、救助時間や、ダミヤンへの衝撃などから得点が決まります。

同コンテストは、書類審査、競技会予選、競技会本選が行われます。2013年の13回大会は、全国から26チームのエントリーがあり、全チームが書類審査を通過しています。競技会は下記の日程で開催される予定となっています。

応援、宜しくお願いします！

大会名 第13回レスキューロボットコンテスト

場所 兵庫県神戸市 神戸サンポーホール

本選 8月10日(土)・11日(日)



生中継の様子



インタビューの様子

フォーミュラカープロジェクトが静的審査レポートを提出！

第11回 全日本 学生フォーミュラ大会 ーものづくり・デザインコンペティションー は、9月3日(火)～7日(土)の5日間の日程で開催されます。

この大会は、フォーミュラカーの設計・製作・走行性能をトータルで評価するため、設計レポートやプレゼンテーション等の静的審査、車検および実際の走行による動的審査が行われます。

静的審査の内、設計およびコストレポートについては、大会の約2か月前に提出する必要があります。コストレポートは、コスト算出の妥当性や競争力を、設計レポートは、設計の適切さ、革新性、加工性、補修性等が審査されます。今年の締切は6月21日でした。メンバー45名は連日連夜、課内の宿題、車両製作そして静的審査レポートという重い仕事を抱えながら、協力して作業を進めました。写真のレポートの枚数をご覧ください。メンバーのフォーミュラカーに懸ける思いが伝わります。



全員で作成したレポート



提出直前の様子

この大会は、1981年に米国で始まりました。4輪自動車生産で日本が米国を抜いて世界一になった翌年です。教室の中だけでは優秀なエンジニアが育たないという気付きから、米国がすぐに行動に移しました。現在では100校を超える大学チームが参加しています。日本でも、多くのサポート企業のもとで、将来自動車産業のエンジニアとして活躍したい学生の育成の場として機能しています。本プロジェクトの学生も、自動車産業界の思いをしっかり受け止め、期待通りの活躍をしています。

人力飛行機プロジェクトがテストフライト！



テストフライトの様子（長野市）

人力飛行機プロジェクトは、今年5年ぶりに「鳥人間コンテスト」に出場します。独創的な、先尾翼という通常の飛行機とは前後が逆で、尾翼が前方に付いている形状を採用しました。操縦性が向上するという特徴を持っています。

現在は、テストフライトを重ね、機体を評価、調整しています。写真は、長野市のグライダー滑走場をお借りしてのテストフライトの様子です。6月15日(土)と6月29日(土)の2回実施しました。

第36回鳥人間コンテスト2013・大会日程

7月27日(土)・28日(日)